

令和5年度
事業報告書

社会福祉法人 善通寺市社会福祉協議会

目 次

I	事業報告概況	・・・・・・・・・・	1
II	各部門事業報告		
	1 法人運営部門		
	1-1 組織運営	・・・・・・・・・・	3
	1-2 財務運営	・・・・・・・・・・	4
	2 地域福祉事業部門		
	2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、 地区社協の活動強化	・・・・・・・・・・	7
	2-2 地域福祉活動支援事業の推進	・・・・・・・・・・	9
	3 ボランティア活動部門	・・・・・・・・・・	16
	4 相談支援事業部門	・・・・・・・・・・	17
	5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門	・・・・・・・・・・	24
	6 在宅福祉事業部門		
	6-1 居宅介護支援事業ホームヘルプサービス	・・・・・・・・・・	26
	6-2 ホームヘルプサービス	・・・・・・・・・・	26
	6-3 通所サービス事業	・・・・・・・・・・	27
	6-4 通所型一般介護予防事業	・・・・・・・・・・	27
	7 共同募金運動への協力	・・・・・・・・・・	28
	【参考資料】		
	別表1 令和5年度会員会費の状況	・・・・・・・・	30
	別表2 令和5年度地区社協活動状況	・・・・・・・・	31
	別表3 善通寺市地域支え合いセンターここ家利用状況等一覧表	・・・・・・・・	40

事業報告概況

地域共生社会の実現に向け、住民主体の地域福祉活動として「第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の推進の支援を行うとともに、コミュニティソーシャルワーカー業務や生活困窮者自立支援事業、新規事業として家計改善支援事業、コロナ特例貸付フォローアップ支援を実施し、生活の困りごとを抱える方々や生活困窮世帯への相談支援を関係機関、地域関係者との連携により行い、居場所づくり等の地域活動を支援した。

そして、地域福祉を推進する中核的な団体として組織運営と事業活動の強化を図るため、市社協強化発展計画に基づき、職員・各係が連携協働し、DXの推進による事務事業の効率化やコミュニティソーシャルワーク機能の強化を図るための様々な取り組みを推進した。

1 法人運営関係

- (1) 善通寺市社会福祉協議会設立70周年記念善通寺市社会福祉大会を地域住民の福祉に関する理解と関心を高め、地域における主体的な福祉活動を活性化し、地域の福祉力を高めることを目的に開催した。
- (2) 市社協強化発展計画に基づき、職員全体で課題の共有、協議等が実施できるよう係連携会議を実施するとともに、クラウドを活用した事務事業の効率化を推進した。
- (3) 地域福祉活動の重要な財源である会費及び共同募金運動については、自治会長、民生委員、地区社協役員等の協力により推進したが、共同募金は目標額を達成できなかった。
- (4) 近年、激甚化する災害に備え、災害ボランティアセンター運営支援に関する協定を善通寺ライオンズクラブと締結し、市民の方の安心・安全の確保及び普段の暮らしに戻ることが出来るよう体制の強化を図った。

2 地域福祉関係

- (1) 市委託事業のコミュニティソーシャルワーカー業務については、地区社協関係者や民生委員に地域の困りごとは社協に相談していただくことを広報周知し、寄せられた相談について関係機関と連携し対応した。
- (2) 重層的支援体制整備事業の受託に向け、市の関係各課と打ち合わせや研修を重ね、体制整備に努めた。
- (3) 地区社協関係者等地域住民の主体による「第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画」の推進を支援するとともに、地域共生社会の実現に向けた居場所づくり等の地区社協モデル事業を地区社協会長連絡協議会において協議し、居場所づくり講座の開催や、2地区社協（東部、吉原）における居場所づくりを支援した。
- (4) 民生委員・児童委員と地区社協の連携協働により見守り活動ネットワーク事業や要援護者安否確認事業を推進するとともに、ふれあい・いきいきサロンの活動を支援し、日頃から気にかけて、支え合う地域づくりを推進した。また、高齢者等外出支援事業については吉原地区社協における買い物支援の運行を再開した。
- (5) ひきこもりの方の家族の居場所づくりとして「家族の会」や生活のしづらさを抱える方の居場所づくりとして「ここめし」、「ここめし女子会」を地域関係者のご協力を得ながら定期的実施し、安心して過ごせる場、また、地域関係者や専門職とつながりを持てる場を提供し伴走型支援を行った。
- (6) 認知症、知的障がいその他精神上の障がいにより判断能力が不十分な人の権利擁護を支える成年後

見制度の利用促進を図ることを目的に、市から市民後見人養成研修業務を受託し、中讃西圏域1市3町の社協と行政が連携し市民後見人の候補者を養成した。また、この研修を通して市民に成年後見人制度の理解と周知を図った。

- (7) 新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業となった生活資金が必要な方に向けて行われた生活福祉資金貸付事業コロナ特例貸付の償還に関する事務手続きをすすめるとともに、貸付世帯の把握と支援が必要な世帯に対し架電や訪問を行い、本会自立相談支援員や家計改善支援員と協働し、年末に食料品の配布会と相談会を実施するなど、生活困窮世帯の相談支援を推進した。
- (8) 家計改善支援事業を新たに市から受託し、家計相談を中心に、複合的な課題を抱えた世帯に対して、自立相談支援機関や関係機関と連携しながら対応した。

3 在宅福祉関係

- (1) 介護保険事業所及び障害福祉サービス事業所において、感染症の発生及びまん延の防止等に関する取組及び感染症及び自然災害における事業継続計画（BCP）の策定が義務化されることに伴い、対応する委員会及び各事業所の事業継続計画を策定した。
- (2) 虐待等防止委員会を設置し適切な事業所運営を進めていくために、虐待の防止、身体拘束等防止に向けた取り組みを行った。
- (3) 国の処遇改善支援金の活用により、介護職員の人材確保に努めた。

1 法人運営部門

1-1 組織運営

目標 経営組織の充実強化を図る。

- (1) 経営組織のガバナンスの強化
- (2) 事業運営の透明性の強化
- (3) 財務規律の強化

事業実績

- 1 理事会 6回
- 2 評議員会 2回
- 3 監査 1回（会計業務指導1回）
- 4 評議員選任・解任委員会 2回
- 5 定例運営会議 12回
- 6 在宅業務改善会議 10回
- 7 在宅福祉係定例会 7回
- 8 社協強化発展計画（3か年）の推進

社協強化発展計画の使命・基本理念を達成するため、基本目標・経営戦略に基づき、実施計画を推進し、9月に進捗状況等の中間評価を行った。また、令和6年5月に令和5年度の進捗状況等の年間を通じての評価を実施する。

- (1) 職員全体で課題の共有、協議等が実施できるよう相談支援グループを中心に、係連携会議を実施した。
 - (2) 外部アドバイザーによる職員全員研修及びチームリーダー研修を実施した。
 - (3) 市社会福祉課と社協運営補助金、重層的支援体制整備事業について協議を行い、社協運営補助金については増額、重層的支援体制整備事業については多機関協働体制整備事業を新規に受託することとなった。
 - (4) ICT、DXを活用した事務事業の効率化については、職員の業務に係る時間や割合等を把握するため業務棚卸等を実施し、業務内容及び時間の可視化を図り、新年度の職員体制等の整備の基礎とした。また、令和4年度から導入したキントーン（クラウド）を活用し、受付業務、CSW、福祉サービス利用援助事業、生活困窮者自立支援事業、生活福祉資金等の輻輳する相談業務等の記録を一括して管理できるようアプリを開発し、運用した。また、庶務関係の事務手続きについても、アプリを作成し、効率化を図った。勤怠、労務管理については、ジョブカンのクラウドを導入し、運用を開始した。
 - (5) 善通寺ライオンズクラブと災害ボランティアセンター運営支援に関する協定の調印式を令和6年1月19日に実施、協定を締結した。
 - (6) 災害ボランティアセンター運営に関する研修会を年度末に実施する予定であったが、令和6年1月1日発災した能登半島地震により、令和6年度に実施することとした。
- 9 「第3次ニーズ対応型社協アクションプラン」（香川県社協、県内市町社協連絡協議会策定）に基づく活動の推進
- 中讃圏域での災害及び後見事業等の一体的な推進の協議、県内広域での連携事業の検討については、事務担当レベルでの話だけに留まり、正式に協議等は開催できなかった。
- 10 災害時・感染症のBCP（事業継続計画）、職員初動参集マニュアルの点検
- 介護保険法及び障害者総合支援法の改正により、介護保険事業所及び障害福祉サービス事業所において、感染症の発生及びまん延の防止等に関する取組及び感染症及び自然災害における事業継続

計画（BCP）の策定が義務化されることに伴い、感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会を設置するとともに、各事業所の事業継続計画を策定した。

1 1 社会福祉センターの管理、運営

(1) 地域福祉、住民福祉活動の拠点として相談業務をはじめ、市民福祉の向上と健康増進を図るため、効果的な管理運営を行い、市、ボランティア団体及び関係団体1, 319回の利用があった。

・利用者人数： 12, 120人（4年度：4, 190人）

(2) 健康増進事業として、社協eサロンを運営しているが、器具等の経年劣化や利用人数の減少により、器具等の廃棄を行うとともに、利用人数に合わせた器具の配置を行った。今後の器具等の更新については、積立金等の費用がなく課題である。

1 2 情報管理に関わるリスク対策の強化

適正な個人情報保護に努めるとともに、ICT、DXの推進に伴うリスクマネジメントについて、職員に説明し、理解を図った。

評価と課題

- ・ 定款その他の規程に従い、適正な組織運営に努めた。
- ・ 社会福祉法人充実残額は発生しなかった。
- ・ 職員全体で課題の共有、協議等が実施できるよう相談支援グループを中心に、係連携会議を実施し、理解を深めることができた。
- ・ キントーン（クラウド）を活用し、事務事業の効率化を推進するとともに、勤怠、労務管理についても一定の成果を得ることができた。
- ・ 介護保険事業所及び障害福祉サービス事業所について、災害における感染症に対応した事業継続計画を策定することができた。

1-2 財務運営

1 自主財源の増強

目標 地域における住民相互の助け合いのための、地域福祉財源としての自主財源を確保する。

事業実績

(1) 会費収入 6, 685, 000円（4年度 6, 813, 500円）

会費状況表（別表1 30P）

(2) 寄附金収入

（単位：円）

種別	令和5年度		令和4年度	
	金額	件数	金額	件数
社会福祉事業積立寄附	1, 015, 331	16	975, 815	22
歳末協賛事業寄附	800, 000	1	800, 000	1
障害者福祉事業寄付	60, 956	1	44, 725	1
生きがいひろば事業寄附	214, 440	-	203, 960	-
寄付物品（備品）	0	-	0	-
合計	2, 090, 727	18	2, 024, 500	24

(3) 事業収入

(単位：円)

事業名	令和5年度金額	令和4年度金額
車椅子貸出事業	107,000	123,000
広報誌広告事業	75,000	95,000
健康増進事業	115,560	20,386
福祉サービス利用援助事業	604,500	573,000
法人後見事業	180,000	180,000
障害者生活支援相談事業所使用料	189,500	189,500
訪問サービス事業	-	115,650
通所サービス事業	517,650	454,500
生きがいひろば事業	193,000	194,000
介護保険対象外サービス事業	8,520	15,750
生活福祉資金貸付事業手数料	72,000	62,000
ここめし参加費	31,000	24,400
ここ寄席参加費	10,400	9,200
合計	2,104,130	2,056,386

(4) 積立金の効果的運用（運用状況）

(単位：円)

積立金等名称	前年度末現在高	本年度取崩額	本年度積立額	本年度末現在高	利息
基本財産	1,000,000	0	0	1,000,000	20
振興財団退職給付引当資産	5,259,908	344,616	633,228	5,548,520	0
退職給付引当資産	11,695,594	0	0	11,695,594	2,000
社会福祉事業積立資産	48,271,573	2,000,000	1,015,331	47,286,904	5,398
障害者福祉事業積立資産	19,600,648	0	0	19,600,648	3,789
地域福祉事業積立資産	12,001,383	1,000,000	0	11,001,383	3,132
ボランティア事業積立資産	7,366,697	0	127	7,366,951	127
健康増進事業積立資産	1,523,824	0	0	1,523,824	0
介護保険事業安定積立資産	15,026,737	0	0	15,026,737	4,418
合計	121,746,491	3,344,616	1,648,686	120,050,561	18,884

評価と課題

- ・ 本会の重要な地域福祉財源である会費収入については、前年度対比で△128,500円であり、年々減少傾向にあることから、ホームページや広報誌を通じた周知等を強化してくとともに、電子決裁や振込用紙を活用した納入方法を検討してく。
- ・ 積立金の社会福祉事業積立資産取崩及び地域福祉事業資産取崩は、当初の予算通りであった。積立金の運用については、理事会の承認を得て、資金運用計画に基づき実施した。

2 公費収入の強化

目標 地域福祉推進の中核的団体として、安定した事業運営ができる健全な財政運営を図るため、公費収入の確保をしていく。

事業実績 補助金、受託事業収入の確保

(単位：円)

種 別	令和5年度金額	令和4年度金額
補助金（市、県社協）	30,999,000	35,876,600
受託事業収入（市、県社協）	50,585,270	39,635,552
合 計	81,584,270	75,512,152

評価と課題

- ・ 社会福祉協議会運営補助金については、市に8市社協の補助金等の状況を伝え、令和6年度予算要求の際に増額の要望を行い、認められた。今後も継続して協議を行い、補助金要綱等の見直しを含めたルール化を要望していく。
- ・ 補助金の減は、香川県社協からの生活福祉資金補助金を委託事業に組替えたことによるものである。
- ・ 委託金の増については、生活困窮者家計改善支援事業を新たに受託したことによるものであり、生活困窮者自立相談支援事業と連動した相談体制の構築を図った。
- ・ 重層的支援体制整備事業多機関協働体制整備事業の受託について、市と協議し、令和6年度から受託することとなった。

2 地域福祉事業部門

2-1 地域共生社会の実現に向けた市社協、地区社協の活動強化

目標 地域の様々な生活課題への対応や地域を基盤にした解決につなげる支援や仕組みづくりを推進するため、小地域における住民主体の福祉活動を一層強化するとともに、社会福祉法人、民生委員・児童委員等関係機関や団体との連携、協働の取り組みを推進し、地域のつながりの再構築を図り、地域共生社会の実現に向けた実践を進める。

事業実績

(1) 市社協の活動強化

ア 地域福祉活動推進のネットワークづくりとしては、社会福祉施設、民生委員・児童委員、相談支援機関、行政との協働、連携体制づくりを意識しながら、相談支援活動を行うとともに各会議、研修会を実施した。

イ 住民主体の小地域福祉活動の活性化については、地区社協活動の推進やふれあい・いきいきサロン活動の充実、見守り活動ネットワーク事業の拡充強化に取り組んだ。

ウ 福祉活動の担い手づくりについては、地域の担い手育成づくりとして、地域福祉リーダー研修を実施するとともに、ふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会を実施したほか、地区社協広報誌に携わる方々が集まり座談会と研修会を実施した。また、地区社協関係者を中心に今後各地区で進めたい地域の拠点づくり・居場所づくりに向けて、居場所づくり講座を実施した。また、善通寺市地域支え合いセンターここ家での活動の推進、民生委員児童委員の定例会や見守り活動推進員の連絡会等において福祉活動の理解及び協力を促進した。

・地域福祉リーダー研修会の実施

日時 令和5年11月1日～2日

研修先 島根県雲南市・雲南市社会福祉協議会、幡屋地区振興会

内容 雲南市における小規模多機能自治による住民主体のまちづくりについて地域自主組織の概要と雲南市、雲南市社協の地域福祉活動との関わり等活動拠点施設の整備プロセス

参加者 地区社協会長、地区連合自治会長、地区民生委員会会長等 19名
市社協職員 4名

・地区広報誌作成のための座談会の実施

日時 令和5年9月25日

場所 ZENキューブ 3階研修室

内容 各地区社協の広報誌の作成状況等情報交換
ミニ講座 善通寺市地域おこし協力隊、善通寺市秘書広報課の方から、みんなにやさしい記事づくりをテーマに講義

参加者 地区社協広報づくり関係者等 14名、市社協職員 3名

・居場所づくり講座の実施

日時 令和5年12月8日

場所 ZENキューブ 3階研修室

内容 地域共生社会づくりに向けて 居場所の力を高めましょう

講師 NPO 法人さくらネット 石井布紀子氏

参加者 地区社協関係者14名、吉原おしゃべり亭、ここ家なないろシェフ、主任児童委員他7名、関係機関等 25名、市社協職員 8名

エ 総合的な相談支援体制の整備については、相談支援事業の強化として、生活困窮者自立相談支援事業、家計改善支援事業、生活福祉資金貸付事業（フォローアップ支援含む）、福祉サービス利用援助事業及び香川おもいやりネットワーク事業の効果的連携により制度の狭間の課題や複合多問題のニーズに対応するとともに、民生委員・児童委員や地区社協と連携し、住民の身近な地域で相談がつながる体制づくりを進めた。また、地域活動の拠点整備として、地域支え合いセンターここ家における地域住民の交流、支え合い活動、居場所づくりを推進した。

(2) 第4次地区（地区社協）地域福祉活動計画の推進の支援

住民の身近な圏域において地域住民が主体的に地域生活課題の把握や共有、課題解決に取り組む体制づくりと地域住民相互の支え合い活動の推進を目指し、地区地域福祉活動計画の推進について支援を行った。

また、市社協と地区社協が連携して、重点的に今後取り組んでいけるよう地区社協会長連絡協議会において地区社協モデル事業を提案し協議した。

(3) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）業務の推進

ア 地域生活課題の把握（ニーズキャッチ、アウトリーチ）

地区社協役員会や地区民児協、見守り活動ネットワーク連絡会等において、地域生活課題の把握と相談が社協につながるよう働きかけた。また、地区分析表をグラフ化し、地区社協総会において各地区の分析結果を説明した。あわせて地域福祉事業の活動内容を説明し、地域住民の協力の必要性を伝えた。

また、そういった中で民生委員・児童委員等から寄せられた相談等について一緒に訪問するなど問題解決に向け取り組んだ。

イ 課題解決のための調整（コーディネート）

民生委員や地域住民及び関係機関から寄せられる個別相談、地域福祉活動の相談に対して、必要なサービスへつなぐ等調整をした。また、必要に応じて地域住民や関係機関が集まり、話し合いの場を調整した。

買い物支援バス再開に向けての地区への働きかけや、高齢者の移動手段がなく買い物に困っているというニーズから移動販売車の調整を行った。

ウ 様々な活動者や団体、機関が協働するきっかけの機会づくり（プラットフォーム）

地域ネットワーク会議や地域支え合い会議を開催し、共通する課題等について様々な関係機関等が集まり、理解を深めるとともに解決に向けて協議を行った。

エ ネットワークづくり（ネットワーク）

子どもの支援を目的とした食料品や日用品等の寄附を、支援団体につないだ。

善通寺市地域おこし協力隊との相談会へ参加し、出来たつながりを活かし、地域おこし協力隊と地域の担い手づくりにつながる講座を企画・開催した。

オ 新しいサービスや資源づくり（ソーシャルアクション）

地域の居場所づくりに向けての働きかけや調整、当日の運営支援をおこなった。（東部地区の居場所「ミニここ家」、吉原地区の居場所「キッズここ家 in よしはら」）

地域支え合いセンターここ家で、新しく子どもの居場所として夏休みアート教室を企画・開催した。

カ 令和5年度地域福祉コーディネーターリーダー研修会（全社協主催）の受講

キ CSWシステムの見直し及び構築

相談内容の共有やCSW業務、課題の可視化のため、相談受付簿や地域支援会議報告書等をキントーンを活用して再構築した。

① 地域支援会議実施件数 248件

CSWの内訳（重複あり）

CSW機能	件数	割合（％）
ニーズキャッチ・アウトリーチ	212	32.1
コーディネート	188	28.4

プラットフォーム	30	4.5
ネットワーク	210	31.8
ソーシャルアクション	21	3.2
合計	661	100

② 相談受付件数 2,662件
CSWの内訳（重複あり）

CSW機能	件数	割合 (%)
ニーズキャッチ	1,827	37.9
アウトリーチ	103	2.1
コーディネート	1,388	28.8
プラットフォーム	35	0.7
ネットワーク	1,422	29.5
ソーシャルアクション	42	0.9
合計	4,817	100

(4) 重層的支援体制整備事業の取り組み

自治体が進める包括的支援体制の整備に向けて、重層的支援体制整備事業の受託に向けて、市の保健福祉部局と打ち合わせや研修を行いながら検討を進めた。

・重層的支援体制整備事業研修会の実施

日時 令和5年6月1日

場所 ZENキューブ 3階研修室

内容 重層的支援体制整備事業について

講師 香川県健康福祉総務課 主任主事 福間弘城 氏

香川県社会福祉協議会 地域福祉部長 十河真子 氏

参加者 19名（市保健福祉部局 市社協職員）

評価と課題

- 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の行動制限が第5類に分類されたことを受け、中止や縮小していた活動事業が再開されるなど、4年ぶりに行われる地域福祉活動や地区行事が増えた。
- 地域福祉活動リーダー研修会では、8地区の連合自治会長、地区民児協会長、地区社協会長が参加し、島根県雲南市における小規模多機能自治による住民主体のまちづくりについて、地域自主組織の概要と雲南市、雲南市社協の地域福祉活動との関わりや、活動拠点施設の整備プロセスなどを学んだ。
- 地区社協の活動の活性化や地区地域福祉活動計画の推進について、どのように地域支援が出来るかを検討するなか、「地区社協モデル事業」を提案した。本年度は地域の拠点・居場所づくりについて、2地区社協で実施することができた。地域担当者と一緒に、役員会や地域福祉活動の場に出向き、相談、企画、連絡調整などを行った。
- 地域ネットワーク会議においては、民生委員・児童委員、地区社協、香川おもいやりネットワーク参画法人、行政の専門職や相談窓口、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカーが共に学び、地域生活課題を共有し、課題解決に向けての多機関で話し合える場と顔の見える関係になる場として実施しており、本年度は地域共生社会の実現に向けて、重層的支援の圏域設定について、確認する機会となった。
- 課題に対応したネットワーク会議へ参加した。（災害対応、自立支援協議会、引きこもり支援者ネットワーク会議等）

2-2 地域福祉活動支援事業の推進

1 地区社協活動事業の推進

目標 日常生活圏域単位で地域の状況に応じた支え合い活動を活発化させ生活課題を抱えた人が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう地域づくりを行う。

事業実績

(1) 地区社協の組織と活動の強化（別表2 31P～39P）

ア 地区社協活動を担う人材の育成

- ・ふれあい・いきいきサロン研修会、サロン代表者会の実施支援
- ・地区社協役員研修会の実施支援

イ 運営費事業費の助成

- ・助成金額 8,236,000円（共同募金助成金含む。）

ウ 地区社協担当職員の配置

- ・地区社協総会の支援、役員会や地区社協活動の企画や連絡調整、相談支援をした。

エ 見守り活動ネットワーク事業の推進

6地区で民生委員・児童委員と見守り活動推進員の連携による要援護者の見守り活動を推進した。また、地区ごとに連絡会や研修会を行い、見守り対象者や地域の課題など情報交換を行った。中央地区、南部地区については、見守り活動ネットワーク事業の立ち上げについて協議をしていくこととした。

オ 地区支え合い会議の企画、実施検討

生活福祉課題を抱えるケースについて、自治会や民生委員から相談を受け、市や社協、相談支援機関が出席し、地区支え合い会議を数件実施した。

カ 地区社協役員、福祉委員等研修会の企画などに協力した。

(2) 地区社協会長連絡協議会の開催

令和5年7月14日	<ul style="list-style-type: none">・各地区社協の事業実施状況と今後の活動について・地区社協モデル事業 地域の拠点、居場所づくり事業について・市社協特別会費について
令和5年12月26日	<ul style="list-style-type: none">・各地区社協の活動状況と課題について・地域福祉活動リーダー研修について・地区社協モデル事業について・外出支援事業の現状について・第5次地区地域福祉活動計画に向けて・市社協会費・共同募金・歳末募金の状況について

評価と課題

- ・地区社協会長会において、地区社協活動の現状や課題について情報交換、協議を行った。また第4次地区地域福祉活動計画の推進については地区社協モデル事業を提案し、地区社協と市社協の連携により、活動が活性化するよう働きかけた。なかでも、今年度は地域の拠点・居場所づくり事業を検討し実施できた地区もあった。また、コロナ禍で中止した事業を再開する地区も多く、連絡調整や役割分担などを再確認しながら進められた。また、これまで積み重ねてきた給食サービスや見守り活動、サロン活動など地域住民同士が交流し、つながりづくりをどのように進めたら良いか、検討した。

2 ふれあい・いきいきサロン事業の推進

目標 地域の支え合い、閉じこもり防止及び介護予防を目的とし、利用者及び運営ボランティア等の参加参画で小地域ごとに自主的な相互支援活動としてのサロン活動を展開する。

事業実績

- (1) サロン結成
99グループ（4年度実績：100グループ）
- (2) サロン結成運営支援
 - ・活動の企画相談支援
 - ・活動費助成：総額 1,011,000円助成
 - ・レクリエーショングッズの貸し出し：14件
 - ・各地区のサロン代表者会、交流会への協力
中央：令和6年3月27日（たかせ天然温泉）
東部：令和6年3月 8日（公民館）
西部：令和6年3月21日（公民館）
南部：令和6年3月 5日（公民館）
竜川：令和6年2月17日（公民館）
筆岡：令和5年6月6日、8月29日、11月21日、令和6年3月8日（公民館）
吉原：令和5年7月27日、令和6年3月13日（公民館）
- (3) リーダー等研修開催
 - ・ふれあい・いきいきサロンパワーアップ研修会の開催
日 時 令和5年12月15日（金）10:00～11:30
場 所 ZENキューブ 4階多目的室
内 容 「魅力を再発見！地域でつながるサロン活動」
講 師 あそびの工房もくもく屋 事務局長 田川 雅規 氏
参加者 72人（サロン代表者等）
- (4) サロン活動の啓発
 - ・広報誌（年4回発行）において、サロン活動を紹介した。

評価と課題

- ・ 高齢化により参加者の減少やリーダーの後継者がいないなど活動が続けられないことが課題である。また、リーダーの高齢化が進み、活動をする上での負担が大きくなっているということから、4年ぶりに一同に集めてサロンパワーアップ研修会を開催し、リーダーが活動を負担に感じずにサロンがゆるく長く続くポイントや、担い手不足をどう解消するかといった話を講師の先生にしていた。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、前年度までは集合しての活動が減っていたが、今年度は徐々に活動が戻ってきている。
- ・ ご近所でのサロン活動は限界があり、参加者は減る一方でグループの存続が難しいという声もあるため、エリアの拡大や趣味・サークルのような活動も認めるなど、新しいサロン活動の在り方を検討していく必要がある。

3 地域の居場所づくり事業の推進

目標 ひきこもり状態にある方やその家族が気軽に相談でき、安心して過ごせる居場所作りや地域の理解者を増やすことと、市の関係各課や関係機関とのネットワーク構築のため、市と共催でひきこもり家族の集いを実施した。

事業実績

- (1) 地域の居場所づくり
住民主体の居場所づくりとして、東部地区社協主催の「ミニここ家」の実施について支援を行った。吉原地区社協については、子どもの居場所づくりが課題となっており、役員会、策定委員の方の意見等を集約し「キッズここ家」の実施となった。
ア 東部：ミニここ家

- 日時 ①令和5年 6月30日(公民館1、2階)
②令和5年12月22日(公民館1、2階)
主な活動内容 カフェ、ミュージック、健康&福祉相談、ゲーム
②は折り紙コーナーを追加
参加者 ①80名 ②140名
(地区社協関係者、保健課、高齢者課、市社協含む)

吉原：キッズここ家 in よしはら

- 日時 令和6年 3月 2日(公民館)
主な活動内容 カフェ、ゲーム5種、むかしあそび、だかしやさんコーナー等
参加者 93名(幼児・児童等、保護者、地区社協関係者、市社協含む)

(2) ひきこもりに関する居場所事業の実施

- ・ひきこもり家族のつどい 3回実施(6/15、8/17、10/19) 参加者1名、スタッフ7名
6月と10月は参加者がいなかったため、市のひきこもり担当者と、ひきこもりに関する居場所やひきこもりに関するフォローアップ研修等の打ち合わせを行った。

- ・ひきこもりに関するフォローアップ研修

日時 令和6年1月30日(火) 13:30~15:00

場所 市役所4回大会議室

内容 「地域の応援団を増やそう」(ZOOMでの研修)

講師 東近江圏域 働き・暮らし応援センター “Tekito-”
センター長・支援ワーカー 野々村 光子 氏

参加者 地域住民、ひきこもり当事者・当事者家族、ひきこもり支援者・市職員 等 50名

- ・中讃保健福祉事務所との意見交換等

2月に市のひきこもり担当者と一緒に中讃保健福祉事務所へ行き、ひきこもり家族のつどいに関する広報周知のあり方や実施の方法について、情報共有と意見交換を行った。

評価と課題

- ・地域の居場所づくりについては、2地区で実施することが出来た。経費については地区社協ごとに課題がある。また本年度「居場所づくり講座」を開催し、重層的相談支援体制整備の圏域ごとに、どのような居場所があるかを整理し、地区社協の担当者と共有する機会ができた。今後は身近な生活圏域としての地区社協等で相談がしやすい場所、つながりができる場所を地域の方と検討する予定である。
- ・ひきこもり家族のつどいを定期的に開催することで、少しずつ家族が安心して本人について話せる居場所となっており、本人の様子や家族の状況、病院受診に世帯の近況が把握できる環境となっている。また、家族同士が情報交換を行うことができ、交流を図れる場となっているが、令和5年度は参加される家族が少なく、令和6年度はひきこもりに関する勉強会と交互に開催し、家族の方が参加しやすい雰囲気づくりを検討する予定である。
- ・ひきこもりに関するフォローアップ研修は市内外から参加があり、講師の研修内容も好評であった。今後も家族や支援者が参加しやすく、ひきこもり当事者や家族が元気になれるような研修を開催していく予定である。

4 高齢者等外出支援事業

目標 高齢者等の日常生活支援や生きがいづくり又は社会参加を促進し、閉じこもり防止と介護予防を目的とした外出支援自動車の運行を地区社協との協働で行う。

事業実績

(1) 【生活支援型】買い物の支援(吉原地区社協)

- ・利用者数 526人(4年度 0人)
- ・運行回数 89回(4年度 0回)

(2) 【生きがい社会参加促進型】温泉、四季の行事巡りなど（8地区社協）

- ・利用者数 2, 137人（4年度 1, 715人）
- ・運行回数 319回（4年度 262回）

評価と課題

4月から吉原地区の生活支援型の買い物支援が再開した。5月には新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され、利用制限も解消したが、最小運行人数5人を集めることができず、運行を休止するグループも多かった。また、運転手の確保が課題となっている。

5 障がい者福祉の推進

目標 障がい者や課題を抱える人が地域で安心して暮らせるように、その活動を支援する。

事業実績

- (1) 当事者組織の活動支援
 - ・善通寺市が実施する精神障がい者の居場所づくり事業「ふれあいポートぜんつうじ」に職員が参加した。
- (2) 福祉自動車貸出
 - ・利用回数 59回（4年度27回）
 - ・貸出車両 1台

評価と課題

福祉自動車貸出事業については、事故が起こった際の保険の取り扱いなどの課題があり、今後も継続して協議していく必要がある。

6 地域安心生活推進事業の推進

目標 居宅要援護者把握事業について、地域の日常的な見守り活動や緊急時に活用できるように、民生委員・児童委員と協働し実施する。

事業実績

- (1) 民生委員との協働による居宅要援護者把握事業の調査実施
 - ・見守り活動に活用することを目的とし、65歳到達者の訪問調査を民生委員・児童委員の協力により実施した。安心キットについては、希望者に配布し自己管理していただく方法で推進した。（新規調査依頼件数 360件、うち登録同意数 99件、新規安心キット配布数 82件）
 - ・民生委員や本人からの登録内容の変更を随時受け付け、要援護者台帳の更新を行った。
- (2) 地域での見守り活動の推進
 - ・民生委員・児童委員や見守り活動推進員、福祉協力員、また、ふれあい・いきいきサロンによる見守り、声かけを継続して行った。
 - ・広報活動として、市社協広報紙「社協だよ！」において、各地区の見守り活動関連記事を掲載し、見守り活動の啓発を行った。

評価と課題

- ・居宅要援護者把握事業登録名簿については、民生委員による日頃の見守り活動のみに活用されており、災害時の具体的な活用方法については決まっていない。避難行動要支援者名簿とあわせて、災害時の安否確認に活かせるよう関係者と協議していく必要がある。
- ・民生委員より名簿が見にくいと意見があったため、要援護者台帳システム作成者に依頼し、名簿の並び順を整理するなど名簿の見直し修正をおこなった。

7 関係団体の運営に係る事務の受託

目標 関係団体の事務局事務を受託し、併せて活動を支援する。

事業実績

- (1) 民生委員児童委員協議会運営事業【市受託事業】
 - ・市民児協事務局の担当（事務、会計、企画相談支援）
 - ・民協理事会、単位民児協への出席 108回
 - ・主任児童委員定例会、研修会への出席 8回
 - ・全員研修会、県、県民児協研修会等各種会議 18回
- (2) 老人クラブ連合会事務局事務【市受託事業】
 - ・社会奉仕活動事業 5回
 - ・月例理事会等 12回
 - ・県老人会議等 11回

評価と課題

市民生委員児童委員協議会及び市老人クラブ連合会の運営が円滑に進められるよう事務局として連絡、調整、企画の支援が行えた。

8 物品貸出事業

目標 車椅子や福祉教育物品等を貸し出すことにより、生活支援や福祉教育の推進を図る。

事業実績

- (1) チャイルドシート貸出し
 - ・新規貸出し 62件
- (2) 車椅子貸出し
 - ・144件
- (3) 福祉教育物品等の貸出し
 - ・レクリエーション遊具 32件
 - ・ボランティア、福祉教育備品 2件
 - ・イベント関連 7件

評価と課題

チャイルドシート貸出については、需要は多いが、安全性の担保がなく、リスクマネジメントの観点から検討が必要である。

9 広報、啓発の推進

目標 地域の方への情報発信と啓発活動を推進し、地域福祉活動の理解を図る。

事業実績

- ・「社協だよ！」を年4回発行し、全世帯へ配布した。
- ・ホームページを完全リニューアルし、市民の方に「見やすい・分かりやすい・探しやすい」を届けられるよう努めた。また、新着情報等については、出来るだけタイムリーに記事を更新できるよう善処した。
ホームページアクセス数は、リニューアル前は、年間3,817アクセスに対し、本格的に運用を開始した7月から3月において42,642アクセスがあった。
- ・幅広い年齢層の方に情報を発信できるよう、インスタグラムを開設し、地域の行事やお知らせ等をタイムリーにアップすることで、幅広い年齢層の方からのフォローを得た。

10 福祉教育推進事業の推進

目標 地域住民の福祉に関する理解と関心を高め、地域における主体的な福祉活動を活性化し、地域の福祉力を高めていく。

事業実績

善通寺市社会福祉協議会設立70周年記念 善通寺市社会福祉大会の開催

新型コロナ感染症が第5類感染症に分類されたことに伴い、コロナ禍前と変わらない、人数制限を設けない社会福祉大会を開催した。また、善通寺市市制施行70周年記念式典と同日開催し、連携するとともに、70周年記念に伴い、善通寺チャリティ美術展に協力いただいている先生や、支え合いセンターここ家のボランティア等表彰枠を拡大し、感謝の意を表した。

併せて、善通寺市社会福祉協議会設立70周年記念誌及び動画を作成し、PRに努めた。

日 時：令和5年11月12日（日） 14：00～16：00

場 所 善通寺市民会館大ホール

内 容 表彰式典、記念講演

記念講演 演題「善通寺の誕生・四国遍路・弘法大師の諸相」

講師 総本山善通寺 法主 菅 智潤 猯下

参加者：400人

11 生活支援コーディネーター業務の受託【市受託事業】

目標 日常生活上の支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要な多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスの調査を行う。

事業実績

(1) 地域に不足する高齢者に対するサービスの把握

- ・ 民生委員・児童委員や地区社協関係者から寄せられる相談の中で、高齢者の生活福祉課題を把握した。

(2) 善通寺市生活支援等サービス協議体への情報提供

- ・ 協議体に1回出席し、社会福祉協議会が把握した高齢者の生活福祉課題について報告した。

評価と課題

次年度においても、民生委員等から高齢者の生活福祉課題を把握するとともに、座談会等において地域課題を把握していくことが必要である。

3 ボランティア活動部門

1 ボランティア、市民活動の推進

目標 市民による自主的なボランティア活動が展開しやすい環境を整えボランティア、市民活動を活性化させ、地域の生活課題への対応ができるボランティアの育成とそのネットワークづくりを目指す。

事業実績

(1) ボランティア・市民活動センター「ボラン家」の運営

- ・ フリースペース、活動紹介コーナー、情報発信コーナーの設置
開所日数：244日（月曜から金曜の9時から17時まで）

フリースペース利用者数：114人

手話サークルたんぼぼへの貸館による利用者数：241名

活動紹介スペースの利用（ミニ作品展：2回）

ボランティア団体紹介コーナーの設置

- ・ コミュニティかふえの運営支援（週1回 火曜日）
コミュニティかふえ実施回数：36回、来場者数：689人

(2) ボランティア情報提供、啓発

- ・ 「社協だよ！」Do ボランティアコーナー、ホームページでの啓発
ボランティア・市民活動センターの周知

Do ボランティアコーナーでボランティア（個人及び団体）を紹介（掲載：4回）

(3) ボランティアグループの支援、連携

- ・ ボランティア保険の加入促進
活動保険（団体、個人等）：22件（500人）、行事用保険：24件（928人）
- ・ 活動の相談援助

評価と課題

- ・ コミュニティかふえが再開したが、市のリズム遊び参加者層の変化や周知不足等で、以前に比べて利用者が少なかった。コミュニティかふえの運営支援として、SNS（Instagram）を通しての情報発信やチラシとポスターを子どもライブラリーに持って行き、参加者への声かけを行なった。
- ・ ボラン家フリースペースがあまり活用されていないため、利用しやすい部屋のレイアウトや情報の発信方法を検討する必要がある。

2 災害ボランティア活動支援体制の整備

目標 災害時にボランティア活動が円滑かつ効果的に行えるよう、支援体制を整備するとともに、感染症にも対応したマニュアルの検証を行う。

事業実績

- (1) 善通寺ライオンズクラブと災害ボランティアセンター運営支援に関する協定の調印式を令和6年1月19日に実施、協定を締結した。
- (2) 災害ボランティアセンター運営に関する研修会を年度末に実施する予定であったが、令和6年1月1日発災した能登半島地震により、令和6年度に実施することとした。

評価と課題

近年、大規模化する災害に備え、市と積極的に災害ボランティアセンター運営に係る擦り合わせや情報の共有等について協議していく必要がある。また、善通寺ライオンズクラブと災害ボランティアセンター運営支援に関する協定を締結したが、他の関係機関・団体等とも災害ボランティアセンター運営に係る協定等が必要であれば検討してく。

4 相談支援事業部門

1 総合相談・援助センターの設置と運営

目標 地域住民の様々な相談に気軽に応じ、専門相談機関への紹介又は連携を行い福祉サービス等の情報提供を行う。

事業実績

(1) 相談事業の実施

区分	回数	相談件数
法律相談	12回	64件
法務登記相談	12回	33件
一般相談	24回	22件

(2) 一般相談員研究協議会の開催

開催日時 令和6年3月6日(水) 14:15~16:30

開催場所 ZENキューブ 3階 研修室

研修内容 研修① 相続登記の義務化と高齢者をターゲットとした詐欺について

講師：丸亀みらい法律事務所 弁護士 久保田 仁氏

研修② 事例を基に学び合う

参加者 16名(民生委員等)

評価と課題

一般相談では、専門的な相談もあり、本会実施の法律相談、法務登記相談や他関係機関に繋ぐことが出来た。法律相談は、希望者が多く、その月の予約枠に入れない方が出ているという課題があるため、来年度は予約件数が多い月の開催回数を増やすことの検討が必要である。

2 権利擁護支援事業の推進

目標 判断能力が不十分な高齢者、障がい者等が地域で安心して暮らせるように関係機関と連携を図りネットワークを構築し、福祉サービス利用援助事業、法人後見事業を推進する。

事業実績

(1) 福祉サービス利用援助事業の推進【県社協委託事業】

- ・専門員 4人、生活支援員 11人
- ・専門員研修会に参加 3回(権利擁護事業担当者会、日常生活自立支援事業専門員研修会等)
- ・生活支援員等研修に参加 2回(新規登録生活支援員研修会、生活支援員等ブロック別研修会)
- ・地区民協でミニ研修会を実施 2回(8地区)

【契約、相談状況】

- ・契約締結件数(令和5年度新規)

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	生活保護(再掲)	合計
契約者数(人)	1	1	0	1	1	3

- ・契約終了件数(令和5年度内)

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
終了者数(人)	0	0	0	0	0

- ・実利用件数(令和5年3月末現在)

種別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
利用者数(人)	8	13	7	3	31

・相談内容 ※重複あり（単位：件）

種 別	高齢者	知的	精神	その他	合計
福祉サービスの手続き	15	5	2	11	33
日常的な金銭管理	182	343	133	111	769
書類預かり	27	3	2	3	35
保健サービスの手続き	0	3	1	2	6
医療に関する事項	8	34	14	32	88
福祉サービスに関する苦情	0	0	0	0	0
今後の生活設計	319	1,369	454	146	2,288
本事業に関する問い合わせ	14	1	3	4	22
成年後見制度に関する問い合わせ	10	3	0	0	13
その他	208	147	40	125	520
初回相談	5	0	4	17	26
合 計	788	1,908	653	451	3,800

(2) 法人後見事業の推進と成年後見制度利用促進のための中核機関との連携

- ・令和5年度受任件数 後見：1件（継続）
受任予定：1件（日常生活自立支援事業からの移行）
- ・成年後見地域連携推進協議会における実務者部会への参加（隔月計6回）
- ・権利擁護中核機関等連絡会議への参加（8月、3月に開催）

(3) 市民後見人養成研修の実施【市受託事業】

【会議開催状況】

- ・中讃西圏域打ち合わせ 5/12(金)、6/26(月)、9/5(火)
- ・善通寺市打ち合わせ 10/6(金)、10/23(月)、11/17(金)
- ・市民後見人養成研修(全5回)
10/3(火)、10/10(火)、10/17(火)、10/24(火)、10/31(火)
- ・中讃西圏域振り返り 12/4(月)、3/4(月)

【事業実績】

- ・受講申し込み者総数：31名(善通寺市：17名)
- ・修了者総数：29名(善通寺市：15名)
- ・善通寺市市民後見人候補者名簿登録者数：6名

【その他】

- ・養成研修についてチラシの作成・配布、社協広報誌・市広報誌への掲載、民生委員・児童委員への周知、SNSでの広報、啓発等を行った。
- ・市民後見人と日常生活自立支援事業支援員の登録方法について、県内5か所の社協に問い合わせを行い、善通寺市社協での方法について内部で検討を行った。

(4) 関係機関とのネットワークづくり

- ・成年後見地域連携推進協議会における実務者部会への参加（隔月計6回）
- ・権利擁護中核機関等連絡会議への参加（8月、3月に開催）

評価と課題

- ・福祉サービス利用援助事業、法人後見事業ともに利用相談の増加に伴って、事業の実施の体制を整えていく必要がある。
- ・単に金銭の管理だけではなく、複合的な課題を抱えている世帯が多く、生活困窮者自立支援事業やCSW担当者、また利用者が関係する施設や事業所、行政等の関係機関と連携し、密な情報交換を行うことで、重層的な支援に努めた。今後は世帯の生活課題を整理し、さらに連携強化し、本人の生活の質の向上に努めていく必要がある。
- ・善通寺市の中核機関と連携し、成年後見地域連携推進協議会における実務者部会へ参加（2か月

に1回)し、権利擁護支援体制に関する課題を協議するためのニーズ把握やケースの相談を行った。

- ・ 市民後見人養成研修を、中讃西圏域合同で開催し、29名の修了者、内6名の市民後見人候補者を養成することができた。次年度以降、フォローアップ研修を継続的に行き、修了者、候補者の持続的な学習意欲の継続やモチベーションアップを図る。
- ・ 日常生活自立支援事業から法人後見への移行を進めている方が1名(市長申立)おり、今後も日常生活自立支援事業から後見制度へのスムーズな移行を中核機関と協働で進めていく必要がある。また、法人後見の受任数増加に備え、後見業務の効率化やマニュアル化、研修等による担当者のスキルアップを進め、被後見人の権利擁護が適切に行えるよう体制を整える。

3 ぜんつうじ生活自立相談支援センターつながるねっこの運営(市委託事業)

(生活困窮者自立相談支援事業の推進)

目標 生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者の自立の促進に向けた自立相談支援等を進める。行政や関係機関との連携を促進する。

事業実績

(1) 自立相談支援事業の推進(市委託事業)

【相談実績】新規相談 344件(令和4年度 270件)

① 相談者

区分	本人	家族、親族	関係者(関係機関)	知人、隣人	その他
件数(件)	229	15	96	3	1

② 相談経路

区分	直接	関係者(関係機関)	その他
件数(件)	150	※191	3

※関係機関経由内訳

区分	社会福祉課	子ども課	高齢者課	市(左記以外の担当課)	病院
件数(件)	41	16	19	6	4

市以外の行政機関	民生委員・児童委員	ハローワーク	障害の相談支援機関	社協(県、他市町含む)	その他
6	20	10	6	42	21

③ 対象者性別

区分	男性	女性	不明、その他
件数(件)	154	170	20

④ 対象者の年代

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
件数(件)	9	22	22	47	52	43	55

80代以上	不明
28	66(うち、30~50代22件 60代以上11件)

⑤ 相談内容(初回相談時) ※重複あり

区分	件数(件)
病気や健康、障がいのこと	56
住まいのこと	32
収入、生活費のこと	162
支払、債務のこと(家賃、光熱費、医療費、税金、ローン等)	51

仕事に関すること（仕事探し、仕事上の不安、トラブル等）	19
家族との関係について（子育て、介護含む）	70
ひきこもり、不登校	4
食べるものがない	41
その他（地域との関係、日常の心配事等）	67
コロナ関係の相談	37

⑥ 相談継続状況

区分	相談継続	経過観察	終了
件数（件）	53	148	143

⑦ 支援申込みの有無

区分	申込み 有	申込み 無	検討中
件数（件）	42	298	4

⑧ 対応状況（前年度から継続している件数も含む。）

- ア 支援調整会議の実施 4回10ケース（プラン作成8件）
- イ 住居確保給付金の利用 2件（決定は4件→うち1件中止1件辞退）
- ウ 任意事業の利用
 - ・家計改善支援事業 52件 ※詳細は(2)に記載
- エ 独自事業で対応
 - ・フードバンクの利用 143件
（緊急支援として36件、年末の配布会で107世帯）
- オ 生活保護受給者等就労自立促進事業の利用 1件
- カ 自立相談支援事業所による就労支援 3件（うち、就労決定 2件）
- キ 法テラスを利用したの債務整理 2件
債務整理等相談 6件
- ク 生活保護へのつなぎ（受給決定）2件

(2) 家計改善支援事業の推進（市委託事業）

【相談実績】新規相談 52件
 延べ相談件数 493件
 家計再生プラン作成 3件

① 相談者

区分	本人	家族、親族	関係者（関係機関）	知人、隣人	その他
件数（件）	49	0	3	0	0

② 相談経路

区分	直接	関係者（関係機関）	その他
件数（件）	1	51	0

※関係機関経由内訳

区分	社会福祉課	税務課	子ども課	高齢者課	市（左記以外の担当課）	病院
件数（件）	0	0	2	0	0	0

自立相談支援機関	民生委員・児童委員	ハローワーク	障がいの相談支援機関	社協（県、他市町含む）	その他
48	0	0	0	1	0

③ 対象者性別

区分	男性	女性	不明、その他
件数(件)	29	23	0

④ 対象者の年代

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
件数(件)	0	7	6	5	6	10	9	2	7

⑤ 相談内容(初回相談時) ※重複あり

区分	件数(件)
収入に関すること	33
家計のやりくりのこと	33
支払いに関すること	39
債務に関すること	20
その他	1

⑥ 対応、支援内容等(初回相談時) ※予定、重複あり

区分	件数(件)
家計管理に関する支援(家計表の作成、出納管理等の支援)	49
滞納(家賃、税金公共料金等)の解消に向けた支援	5
各種給付制度等の利用に向けた支援	5
債務整理に関する支援(多重債務者相談窓口との連携等)	8
貸付のあっせん	0
自立相談支援機関へのつなぎ	0
その他	4

(3) 生活困窮者を支援する事業の推進

フードバンク香川との連携を図り、食支援を必要とする方へ食料品を提供した。

コミュニティーソーシャルワーカーと連携し、複合的課題を抱える世帯への支援を行った。

(4) 関係機関とのネットワークづくり

年間を通して、ひきこもり支援関係者ネットワーク会議に参加し、ひきこもり支援に関わる支援者とのネットワークづくりを行った。

自立支援協議会の精神保健福祉部会と発達支援部会に参加し、障がい関係の支援者等とのネットワークづくりを行った。

(5) 特例貸付の借受人へのフォローアップ支援との連携

特例貸付の借受人で償還の口座手続きや免除申請等の連絡がない世帯に対し、特例貸付フォローアップ支援の担当者と一緒に訪問等のアウトリーチを行った。また、年末に食料品の配布会と相談会を実施し、支援が中断していた方にもアプローチすることができた。

評価と課題

- ・ 初回相談は前年度に比べ70件ほど増加しているが、単発での対応や関係機関につないで終了するケースも多く、プラン作成件数は前年度に比べ減少している。
- ・ 新規に家計改善支援事業の受託が開始し、家計の問題だけでなく、複合的な課題を抱えた相談者が多く、自立相談支援や関係機関と連携しながら対応した。

- ・ 令和5年度から特例貸付のフォローアップ支援が始まり、償還が困難な方へのフォローアップ支援を福祉資金の担当者と連携して行った。
- ・ 国の自立相談支援事業従事者養成研修（相談支援員養成研修）と家計改善支援事業従事者養成研修を受講し、事業全般と専門分野の学びを深めた。
- ・ 県社協主催の3担当（生活福祉資金、日常生活自立相談支援事業、生活困窮者自立支援事業）合同定例会や、生活福祉資金の説明会に参加し、ネットワークの構築や連携に努めた。
- ・ 地域関係者や香川おもいやりネットワーク、企業の協力により、年末にフードドライブと食料品の配布会を実施することができた。また、配布会に併せて相談会も実施したことで、支援が中断していた方等の状況を確認することができた。
- ・ 顧問弁護士に日常的に相談できる環境にあることで、法的な支援が必要な方をスムーズに法律相談につなぐことができた。
- ・ 住居確保給付金や生活困窮者自立支援金の利用がスムーズに行えるよう、社会福祉課と連携して対応した。
- ・ おもいやりネットワークの担当者と連携し、制度の狭間にある相談者への対応に努めた。

4 香川おもいやりネットワーク事業の推進

目標 地域の深刻化する福祉課題や生活課題に対応するため、香川県内の社会福祉法人や関係機関、団体が協働し、生活のしづらさを抱え支援を必要とする方をトータルで支える仕組みづくりを進める。社会資源やサービスの開発、人材の育成、福祉教育の充実、実施体制の整備に取り組む。

事業実績

(1) 総合相談支援（緊急的経済支援）

- ・ 経済支援0件（令和4年度：2件）、経済支援に至らない相談2件

(2) 施設や保健、福祉、医療等の関係者の連絡会の実施

- ・ 善通寺担当者会の実施

日時 令和5年8月30日 14:00～15:30

場所 ZENキューブ 2階ミーティング室

- 内容 ①香川おもいやりネットワークについて
 ②情報交換 参画法人の取り組みや地域との関わりについて
 ③地域の相談事例等について

参加者 香川おもいやりネットワーク参画法人 5法人 11名

- ・ 地域ネットワーク会議の実施

日時 令和5年12月7日 14:00～16:00

場所 ZENキューブ 4階多目的室

- 内容 ①事業説明 香川おもいやりネットワークについて
 講師 香川県社会福祉協議会 地域福祉部長 十河真子氏
 ②講義 地域共生社会づくりに向けて～居場所のチカラを高めましょう～
 講師 NPO法人さくらネット 代表 石井布紀子氏

参加者 民生委員児童委員14名、地区社協関係1名、香川おもいやりネットワーク参画法人3名、専門相談機関・行政相談機関等9名 市社協8名 計35名

(3) 連携、協働による事業企画、事業の推進

ここ寄席、ここめし、ここめし女子会を実施した。

評価と課題

- ・ 制度では対応できない生活のしづらさを抱える方の相談支援について、生活困窮者自立支援事業担当者や関係機関と連携し実施した。
- ・ ここ家の生きがい広場と連携し、地域の方が語り手となって集える場「ここ寄席」を実施した。
- ・ 生活困窮者自立支援事業と連携し、ここめし、ここめし女子会を実施した。
- ・ 地域ネットワーク会議では、香川おもいやりネットワーク事業、取り組み実績や課題などについて

て、香川県社会福祉協議会の十河部長から現状についてご説明頂いた。また、地域共生社会づくりに向けて「～居場所のチカラを高めましょう～」と題して、NPO法人さくらネットの石井布紀子氏にお話しいただいた。グループワークでは緊急的な課題として、『フードドライブ、食品配布会に向けての状況』を提起し、解決に向けてのアイデアについて、話し合ったりすることで、現実的な課題を一緒に解決できる、顔の見える関係づくりができた。

5 生活福祉資金貸付事業の推進【県社協受託事業】

目標 低所得者又は障がい者、高齢者世帯などに対し、資金の貸し付けと必要な援助指導を行うことによって、生活の自立を促進する。

事業実績

(1) 資金の貸付

所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯に対し、必要に応じて資金貸付と相談、支援を行った。

- ・相談件数：12件
- ・令和5年度申し込み件数：9件（内 貸付決定件数：8件）

貸付申し込み種別内訳

種別	内訳	件数（決定件数）
緊急小口資金	生活保護つなぎ資金	4件（3件）
福祉資金	福祉費	2件（2件）
教育支援資金	高校、専門学校、大学	3件（3件）

※福祉資金：エアコン等の購入費用

(2) コロナ特例貸付における債権管理事務及びフォローアップ支援

令和5年1月から引き続き償還開始となっている特例貸付の借受人を対象に、フォローアップ支援を行った。

① 債権全体の免除申請等について

種別	内訳	決定件数（世帯数）
免除申請	非課税免除	136件
	任意免除（生活保護、自己破産、死亡）	14件
猶予申請	療養、離職、減収等	14件
償還完了	一括返済等	11件

※コロナ特例全体の債権数としては718件、うち令和5年度免除対象債権数が104件

② 令和5年度フォローアップ支援について（償還開始に伴う未手続世帯への対応）

アプローチ	世帯数
アウトリーチ（架電、訪問等）	88件
本人から連絡、死亡など	18件

※償還開始に伴う未手続世帯106件のうち47件に連絡が取れ、今後の方針が確認できた。

評価と課題

- ・生活保護へのつなぎ資金は昨年に比べ減少してきている。
- ・教育支援資金は相談等を含め増加していき、貸付までに時間がかかるので早めの相談などを呼び掛けていく必要がある。
- ・自立相談支援機関や家計改善支援機関と協働し、歳末に食料品の配布会と相談会を実施し、支援が必要な方を相談につなげることができた。
- ・県社協主催の研修会や担当者会に参加し、相談援助の強化を図った。

5 善通寺市地域支え合いセンターここ家事業部門

目標 多種多様な取組みを地域住民が主体的に選択し、参加参画できるように企画し、連絡、調整する。また、複雑多様化する地域ニーズに対応できるよう、住民主体の多様なサービスを有した新たな介護予防と地域福祉活動の拠点の機能を最大限活かした支援を市全体で検討し構築していく。

事業実績

1 生きがいひろば事業の推進 (別表3 40P)

(1) 生きがいひろば事業の運営

- ・地域住民の趣味や特技を活かして、手芸や工作等の講座を実施し、参加者同士の交流を図り、いきいきと過ごせる居場所づくりを行った。また、夏休みには親子や祖父母と孫で参加できるアート教室を開催した。
- ・講座実施回数：107回（4年度：145回）
- ・講座利用人数：689人（4年度：500人）
- ・その他の利用者数：1,146人（4年度：1,266人）
- ・ボランティア数：103人（4年度：102人）

(2) ワンディキッチンでの運営支援

食を通じたコミュニティづくりを目指して、日替わりシェフの店などいろいろの運営を支援した。新たなつながり、支え合い活動を推進するとともに、地域住民が食を中心に気軽に寄れる居場所づくりを行った。

- ・開店日数：203日（4年度197日）
- ・利用者数：6,779人（4年度：5,940人）
- ・シェフ、アシスタント数：510人（4年度：428人）
- ・シェフの会：11回開催

(3) 発達障がい者等の居場所事業（ゆるゆるカフェ）

コミュニケーションに不安を抱えている方や苦手と感じている方を対象とし、2カ月に1回居場所を開催した。その中で発達障がいに関する相談が気軽にできるよう、アルプスかがわ地域サポート委員の協力のもと、年に2回相談会（カフェ de 相談）を実施した。

- ・開催回数：5回
- ・参加人数：参加者11人、スタッフ16人

(4) ここめし、ここめし女子会の実施

生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりが薄い方等が、食を通じて地域住民とゆるやかにつながれ、生活に困りごとが生じたときに気軽に相談できるような居場所としてここめしを5回実施した。また、女性が気軽に寄れる場としてここめし女子会を3回実施した。

- ・ここめし打ち合わせ会 年5回（5/8、7/31、11/13、2/5、3/25）
- ・ここめし：開催5回（6/19、8/21、10/16、12/11、2/19）、延べ参加者143人、延べボランティア20人、延べ社協スタッフ28人
- ・ここめし女子会：開催3回（4/17、9/11、3/11）、延べ参加者14人、延べボランティア13人、社協スタッフ13人

(5) ここ寄席の実施

地域で活動する方や専門職、当事者等に活動の内容や体験したこと、将来取り組みたいことなどを語ってもらいながら、参加者（地域住民）の共感や気づきや学びの場（機会）をつくることを目的として、年に4回実施した。

〔第1回〕令和5年5月29日

〔第2回〕令和5年8月28日

〔第3回〕令和5年12月4日

〔第4回〕令和6年2月27日

延べ利用者数65人、スタッフ（ボランティア、社協）19人

評価と課題

- ・ 生きがいひろば事業は、地域住民の交流や支え合い活動の場を提供し、やりがいや人とのつながり、仲間づくりを推進することができた。
また、今年度初めて夏休みに親子アート教室に取り組み、新たな層の参加を得ることができた。新年度においても子どもや学生が関われる事業を検討する。
- ・ 日替わりシェフの店などいろは、食を通じてシェフ・アシスタントと地域住民、地域住民同士のふれあいが広がり、シェフ・アシスタントのやりがい、利用者の楽しみや介護予防につながっているが、今後の安定した運営のためにシェフやアシスタントの人材の発掘や確保が急務である。
- ・ 発達障がい者等居場所事業については、今年度から2か月に1回実施した。居場所の取り組みの一環として、アルプスかがわ地域支援サポート委員に相談員として来てもらい、居場所に参加する中で気軽に発達障がいに特化した相談が受けられる相談会（カフェ de 相談）も実施した。数年ぶりに参加される方や、以前自立支援機関に関りがあった方などの参加があり、長期的にゆるくつながりが持てる場となっている。
- ・ ここめしは、2か月に1回開催し、毎回参加される方も多く、参加者と地域の方（ボランティアスタッフ）、参加者同士の交流が見られ、安心できる居場所となっていることが伺えた。また、会の開催にあわせてスタッフ同士で打ち合わせの会を持ち、前回の振り返りや次回の開催にあたっての意見交換や情報共有を行うことで、参加者とのコミュニケーションが取りやすく、楽しんで参加してもらえる居場所となっている。年度末には参加者向けのアンケートを実施し、次年度以降のここめし開催の参考となる回答が寄せられた。ここめし女子会では地域の方（ボランティアスタッフ）と一緒に調理をする機会が多く持て、作業をしながら楽しいひと時を過ごすことができた。
- ・ ここ寄席については、語り手と参加者の交流を大切に、参加した方が感じたことも共有できるよう意識して運営し、語り手の思いを知ると同時に参加者自身のことを振り返る機会にもなった。また、今年度は語り手にお話ししてもらうだけでなく、特技を活かし、参加者も一緒に体験する機会を増やした。

2 通所サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市受託事業】 後掲（6 在宅福祉事業部門）

3 通所型一般介護予防事業（くすの木脳トレコース事業）【市受託事業】 後掲（6 在宅福祉事業部門）

6 在宅福祉事業部門

訪問介護事業は利用者減となった。障害福祉サービス事業のサービス利用者は増となったが提供時間、回数は減となった。通所サービス事業利用者は増となった。訪問体制の効率化により介護保険事業等収支の改善を図った。

6-1 居宅介護支援事業

目標 住み慣れた地域での生活が継続できるよう地域の社会資源と協働しながら要介護者の自立支援を行う介護サービスの調整だけでなく生活全般を支援し生活環境の改善が可能になるよう、社協らしいプランを作成する。

達成基準 延べ利用人数年間：1,080人 月間：90人

事業実績 延べ利用人数年間：1,067人（4年度：961人）

6-2 ホームヘルプサービス

目標 支援を必要とする高齢者や障害者及び難病患者が在宅で生活を営むために必要な介護及び生活援助を行い、自立促進と社会的孤立の解消及び要介護、要支援状態への予防に努め、在宅生活を継続できるよう支援する。

(1) 障害福祉サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援事業）

達成基準 延べ利用者数：年間270人、時間数：3,300時間、回数：2,900回

事業実績 延べ利用者数：年間274人（4年度：265人）

延べ利用時間数：3,248時間（4年度：3,296時間）

延べ利用回数：2,885回（4年度：3,204回）

サービス種別	年間延べ利用時間（時間）	年間延べ利用回数（回）
身体介護	136：30	273
家事援助	2,494：30	2,106
通院介助（身体介護を伴う）	73：10	36
同行援護（身体介護を伴わない）	52：00	52
同行援護（身体介護を伴う）	309：30	202
移動支援	183：00	216
合計	3248：40	2,885

(2) 訪問介護事業

達成基準 延べ利用者数：年間230人、時間数：2,500時間、回数：2,500回

事業実績 延べ利用者数：年間221人（4年度：219人）

延べ利用時間数：2,292：45時間（4年度：2,459時間）

延べ利用回数：2,521回（4年度：2,467回）

(3) 指定訪問サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市委託事業】

達成基準 延べ利用者数：年間550人、時間数：3,800時間、回数：3,800回

事業実績 延べ利用者数：年間547人（4年度：629人）

延べ利用時間数：3,799：15時間（4年度：4,195時間）

延べ利用回数：3,813回（4年度：4,209回）

区 分		令和6年3月 (人)	令和5年3月 (人)	前年対比 (人)
(2) 訪問介護事業	要介護1	11	11	0
	要介護2	6	5	1
	要介護3	0	3	△3
	要介護4	1	0	1
	要介護5	0	0	0
(3) 指定訪問サービス事業	総合事業 要支援1	23	29	△6
	総合事業 要支援2	18	29	△11
合 計		59	77	△18

6-3 介護予防、日常生活支援総合事業（通所サービス事業）【市受託事業】

目標 脳トレなどの機能の活性化を目的とした介護予防レクリエーションを実施し生活にメリハリをつけるとともに、活動を通して、支えられるだけでなく地域でいなければならない役割があることを認識していただき、地域で共に支え合う関係づくりを推進する。

達成基準 登録者数：50人

利用実績 登録者数：55人（4年度：53人）

延べ利用人数：3,415人（4年度：2,987人）

ボランティア延べ人数：175人（4年度：152人）

6-4 介護予防、日常生活支援総合事業（通所型一般介護予防事業（脳トレコース））【市受託事業】

利用実績 登録者数：55人（4年度：52人） 実施回数：101回（4年度：78回）

延べ利用人数：942人（4年度：1,084人）

サポーター延べ人数：537人（4年度：506人）

評価と課題

- ・ 居宅介護支援事業所の新規利用者は増えている。
- ・ 訪問介護事業所利用者は在宅から施設入所の利用者が多く減少している。
- ・ 通所サービス事業は、過ごしやすい環境を整えた。日々の関わりの中で、利用者の変化に気づき他機関との連携を図り、本人と家族にとってより良い支援に繋がった。感染症対策も継続して行った。
- ・ 通所型一般介護予防事業は、生活の中で出来る介護予防につながる内容を考え実施した。また、サポーターが活躍できる時間も設け、参加者の声に耳を傾けサポーターと連携を図り環境を整えた。

7 共同募金運動への協力

目標 民間福祉活動を総合的かつ効果的に推進し、社会福祉への住民の理解を深める。共同募金運動に協力することによって、地域福祉の推進に貢献する。

事業実績

(1) 共同募金運動

- ・善通寺のまちをよくするプロジェクト募集 4月
- ・審査委員会の開催 2回 助成事業審査等
- ・運営委員会の開催 2回 共同募金推進計画等について
- ・募金実績

区分		目標額 (円)	実績額 (円)	達成率 (%)
地区	中央	830,000	731,900	88.2
	東部	1,076,800	1,059,200	98.4
	西部	490,700	546,900	111.5
	南部	630,800	487,600	77.3
	与北	365,400	399,000	109.2
	竜川	1,002,200	937,300	93.5
	筆岡	684,500	776,000	113.4
	吉原	551,100	598,500	108.6
事務局	919,500	825,169	89.7	
合計	6,551,000	6,361,569	97.1	

・助成実績 令和4年度募金（令和5年度事業）

事業名	実績額 (円)	助成先
地域福祉推進事業	2,443,352	地域福祉活動計画に基づく市社協の実施事業
小地域福祉活動事業	1,812,500	8地区社協
地域福祉活動支援事業	510,000	福祉団体、地域団体（16団体）
合計	4,765,852	

- ・災害見舞金給付金：0円
- ・災害たすけあい義援金：625,561円

募金先	件数	募金額(円)
令和6年能登半島地震災害義援金(中央共募)	12	609,280
令和6年能登半島地震災害義援金(石川県共募)	2	12,510
令和6年能登半島地震災害義援金(富山県共募)	1	1,425
令和6年能登半島地震災害義援金(新潟県共募)	1	811
令和6年能登半島地震災害義援金(福井県共募)	1	1,535
合計	17	625,561

(2) 歳末たすけあい運動

- ・募金運動については、婦人会及び自治会の協力で戸別募金、大口募金を実施。自衛隊営内居住者については、事務局から依頼した。

- ・歳末たすけあい運動実行委員会の開催 2回
- ・募金実績

区分	金額 (円)
戸別募金、特別募金	1,997,800
営内募金	41,000
合計	2,038,800

- ・助成実績

種類	件数	助成金額 (円)
児童福祉施設利用者	569	362,000
障害児(者)関係	77	77,000
準要保護児童等在宅関係	404	630,500
地区社協、婦人会、自治会、市社協	17	931,500
公募事業	1	6,000
合計	1,068	2,007,000

※ 募金実績 2,038,800 円と助成実績額 2,007,000 円の差額 31,800 円は運動終了後の募金のため、来年度に繰り越します。

- (3) 善通寺市歳末たすけあい運動協賛事業善通寺チャリティ美術展

- ・善通寺チャリティ美術展の実施

ZEN キューブ開館1周年記念イベントに合わせ開催した。

日時 令和6年1月28日(日)～1月31日(水)

10:00～16:00

場所 ZEN キューブ 3階特設会場

内容 県内外の有名寺院の名僧、著名な書家、美術家から寄贈された書、絵画、工芸品等を展示即売

出展作品数 188点 作品協力者 73人

チャリティ即売売上金 1,381,000円

※市社協地域福祉事業へ繰入金支出 800,000円

評価と課題

- ・ 歳末募金では、公募による助成を1件実施した。
- ・ 共同募金及び歳末募金の実績額については、毎年度減少しており、新たな仕組みづくり(募金百貨店、ガチャガチャ募金、自動販売機募金等)を検討していく必要がある。

令和5年度会員会費の状況

(令和6年3月31日現在)

区分 地区	一般会費	賛助会費	特別会費	合計	世帯数(自治会 加入世帯数)
	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	上段:会員数(人) 下段:会費額(円)	
中央	882	35	59	976	1,122
	441,000	37,000	510,000	988,000	
東部	1,345	61	38	1,444	1,466
	672,500	62,000	360,000	1,094,500	
西部	655	94	30	779	674
	327,500	94,000	290,000	711,500	
南部	692	19	21	732	878
	346,000	25,000	190,000	561,000	
与北	484	31	7	522	499
	242,500	34,000	65,000	341,500	
竜川	1,344	49	36	1,429	1,360
	672,000	49,000	325,000	1,046,000	
筆岡	840	103	38	981	917
	420,000	113,000	340,000	873,000	
吉原	629	96	55	780	753
	314,500	100,000	535,000	949,500	
小計	6,871	488	284	7,643	7,666
	3,436,000	514,000	2,615,000	6,565,000	
その他			18	18	
			120,000	120,000	
合計	6,871	488	302	7,661	
	3,436,000	514,000	2,735,000	6,685,000	

前年度	7,131	531	295	7,957	
	3,565,500	553,000	2,695,000	6,813,500	
対比	96.3%	91.9%	102.3%	96.2%	
	96.3%	92.9%	101.4%	98.1%	

令和5年度 地区社協事業報告〈中央地区〉

(令和 5.4.1～令和 6.3.31)

目標	五重塔がはぐくむ支え合いのまち 中央地区	設立年月日	平成2年1月16日
----	----------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	7/1 事業報告、監査報告、R5年度の事業計画案、予算案等	25名
監査	6/15	5名
役員会	6/25 総会資料作り	10名
	6/29 総会準備	6名
研修会	11/20 自治会と合同研修会	25名
サロン代表者会	3/27 R6年度の外出支援事業計画案、活動費配布	21名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者 民生委員 10回 (R5.1.1～R5.12.31) 695人 (R5.1.1～R5.12.31)
在宅要援護者安否確認事業	対象者 訪問担当者 訪問回数 延べ対象者数	80歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯、障がい者等 民生委員 4,880回 (R5.1.1～R5.12.31) 3,356人 (R5.1.1～R5.12.31)
ふれあい・いきいきサロン	14グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 55回、延べ利用者数 381人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
赤門八日市	毎月8日 赤門筋	薬師堂一般参拝者にお接待	一般参拝者 ボランティア役員 100名
中央自治会みかん狩り	11/26 西部みかん山	ハイキング及びみかん狩り	一般自治会員 220名
中央地区防災訓練	11/26 中央小学校	防災訓練	一般自治会員 消防団 200名
食育事業	1/19 中央小学校	5年生と豚汁試食	40名
中央小学校児童との交流事業	12/6 中央小学校	児童とのカローリング試合	5年生 会員 60名

令和5年度 地区社協事業報告〈東部地区〉

(令和 5.4.1～令和 6.3.31)

目標	支え合い、助け合うまち、東部地区	設立年月日	平成2年2月26日
----	------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/30 事業報告、事業計画、役員改選等	61名
監査	5/10	4名
役員会	5/10 総会、「ミニここ家」開催について	19名
	7/14 特別会員の推進及び集金について、新任見守り活動推進員へ「推進員証」「マニュアル」を交付	23名
	12/1 今後の予定、「ミニここ家」開催について	19名
外部研修会	1/29 自治会、自主防災会と合同で、高知県中土佐町役場・避難タワー視察研修	43名
サロン代表者会	3/8 助成金の支給、サロン活動についての座談会等	20名

◆ 事業実績

事業名	事業内容
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 75歳以上の独居高齢者、80歳以上の高齢者のうち希望者 配食の担当 民生委員 実施回数 10回 (R5.1.1～R5.12.31) 延べ対象者数 1,252人 (R5.1.1～R5.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者 民生委員・児童委員12人、見守り活動推進員55人
ふれあい・いきいきサロン	17グループ
高齢者等外出支援事業	運行回数42回、延べ利用者数287人

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあい会食会	中止	—	—
ふれあい会	11/28 東部幼稚園	園児の演技、ふれあいタイム、主任児童委員による紙芝居、園児にプレゼント贈る	幼稚園児66名 高齢者参加者50名
友愛訪問①	8/31	梨のお届け	75歳以上一人暮らし、寝たきりの方237名
友愛訪問②	2/23、2/24	赤飯のお届け	〃 212名
居場所づくり① (ミニここ家)	6/30 東部公民館	ミニカフェ、ミュージックコーナー、ゲームコーナー、健康福祉相談コーナー	80名
居場所づくり② (〃)	12/22 東部公民館	折り紙コーナーを追加	140名
敬老行事	9/16 他	商品券、記念品のお届け	1,083名
公民館まつりへの協力	中止	—	—
ウォーキング行事への協力	5回実施 市内各所	ウォーキング	自由参加
東部っ子パトロール隊への協力	指定日見守り 東部小学校、地区内各所	助成金及び有志による付き添い見守り	民生委員、福寿会、自治会等 有志

◆ 広報誌の発行

広報の名称	東部地区だより	編集委員	地区社協三役、公民館運営委員等計11名
1回あたり印刷部数	2,000部	編集委員会開催日	9月下旬、3月下旬(持ち回り)
1回あたりの諸経費	34,980円(印刷代) (他に写真、テスト印刷等)	発行回数	年2回
配布方法	自治会全戸配布、公民館、小学校・幼稚園	発行日	第15号 令和5年9月30日発行 第16号 令和6年3月31日発行

令和5年度 地区社協事業報告〈西部地区〉

(令和 5.4.1～令和 6.3.31)

目標	すべての人が安心して暮らせるまち西部	設立年月日	平成2年2月21日
----	--------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者数
総会	5/27 R4 年度事業及び会計報告、R5 年度事業及び予算	35 名
監査	4/15	4 名
役員会	5/7 決算報告と来年度事業、総会の進め方について	20 名
執行役員会	4/21 決算報告と総会の進め方について	6 名
	7/6 R5 年度事業のすすめ方、当面の事業について	6 名
	9/7 今後の事業、きずな 2 号の発行について (併にきずな(情報誌)編集委員会)	9 名
	1/26 役員研修、今後の事業について	7 名
西部地区だより「きずな」編集委員会	3/6 きずな 3 号の発行について	10 名
役員研修	2/28 かがわ総合リハビリテーションセンター他	14 名
見守り活動推進員全体会議	11/30 見守り活動の実施状況の報告、進め方について意見交換	20 名
サロン代表者会	3/21 サロンの活動計画、実施状況について協議	6 名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75 歳以上の高齢者、要援護者 民生委員 10 回 (R5.1.1～R5.12.31) 336 人 (R5.1.1～R5.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員 9 人、見守り活動推進員 21 人
ふれあい・いきいきサロン	7 グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 30 回、延べ利用者数 199 人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあいハイキング大会	雨天のため中止	—	—
市民体育祭西部地区大会	5/20 西部小運動場	運動会の競技	100 名
五岳荘慰問打合せ	6/11	日程、出し物等協議	10 名
五岳荘慰問	9/15	歌、踊り等で入居者激励	20 名
善通寺まつり総踊りに参加	7/23		200 名
高齢者盛夏日応援事業	8/17	お菓子を持って慰問	独居高齢者 40 名
四国健康村入湯の旅	9/13 四国健康村	観劇、入湯、交流	20 名
公民館まつり	11/11	バザー、展示等	200 名
長寿を祝う会	11/12 西部小体育館	式典、芸能発表	250 名
三世代交流健康づくりスポーツ大会	2/3 西部小体育館	カローリングの地域別競技大会	100 名
合同防災訓練	2/3 西部小体育館 及び校庭	①水消火器の扱い方②簡易担架の作り方、運び方③発電機の方法	100 名
独居老人への年賀状	12/25	小学生から独居老人への年賀状	独居高齢者等 95 名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	西部地区だより「きずな」	編集委員	9 名
1 回あたり印刷部数	860 部	編集委員会開催日	9/7、3/6
1 回あたりの諸経費	約 100,000 円	発行回数	年 2 回
配布方法	単位自治会を通じて配布	発行日	第 2 号 令和 5 年 9 月 30 日発行 第 3 号 令和 6 年 3 月 31 日発行

令和5年度 地区社協事業報告〈南部地区〉

(令和 5. 4. 1～令和 6. 3. 31)

目標	誰もが生き活きと暮らせ 多彩でうるおいに満ち 共に創り共に助け合う 南部地区	設立年月日	平成2年3月12日
----	---	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/24 各委員へ総会資料を配布（書面表決により実施）	56名
監査	5/6	4名
外出支援事業打ち合わせ	3/5 外出支援代表と運営について	7名
ふれあいサロン打ち合わせ	3/5 ふれあいサロングループと今後の運営について 打ち合わせ	9名

◆ 事業実績

事業名	事業内容								
在宅要援護者安否確認事業	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">対象者</td> <td>75歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯等</td> </tr> <tr> <td>訪問担当者</td> <td>民生委員</td> </tr> <tr> <td>訪問回数</td> <td>1,591回（R5.1.1～R5.12.31）</td> </tr> <tr> <td>延べ対象者数</td> <td>1,282人（R5.1.1～R5.12.31）</td> </tr> </table>	対象者	75歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯等	訪問担当者	民生委員	訪問回数	1,591回（R5.1.1～R5.12.31）	延べ対象者数	1,282人（R5.1.1～R5.12.31）
対象者	75歳以上の独居、寝たきり世帯、高齢者世帯等								
訪問担当者	民生委員								
訪問回数	1,591回（R5.1.1～R5.12.31）								
延べ対象者数	1,282人（R5.1.1～R5.12.31）								
ふれあい・いきいきサロン	6グループ								
高齢者等外出支援事業	運行回数26回、延べ利用者数160人								

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者												
一日ふれあい旅行	12/4 四国健康村	75歳以上の一人暮らしの方を対象とした 一日ふれあい旅行	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>会長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>副会長</td><td>2名</td></tr> <tr><td>運営委員</td><td>1名</td></tr> <tr><td>民生委員</td><td>8名</td></tr> <tr><td>市社協</td><td>1名</td></tr> <tr><td>招待者</td><td>36名</td></tr> </table>	会長	1名	副会長	2名	運営委員	1名	民生委員	8名	市社協	1名	招待者	36名
会長	1名														
副会長	2名														
運営委員	1名														
民生委員	8名														
市社協	1名														
招待者	36名														
介護支援事業所へ クリスマス慰問	12/15 大杉病院	介護支援が必要な人へクリスマス慰問を 行い、お菓子・ジュースを持参	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>会長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>副会長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>運営委員</td><td>1名</td></tr> </table>	会長	1名	副会長	1名	運営委員	1名						
会長	1名														
副会長	1名														
運営委員	1名														
幼稚園児へ雛あられ 持参訪問	2/27 南部幼稚園	ひな祭りに南部幼稚園児に雛あられを持 参し訪問	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>会長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>副会長</td><td>1名</td></tr> <tr><td>運営委員</td><td>1名</td></tr> </table>	会長	1名	副会長	1名	運営委員	1名						
会長	1名														
副会長	1名														
運営委員	1名														
三世代ウォーキング	3/2 南部公民館	南部地区の三世代を対象として、ウォーキ ングを行いスタンプラリーで楽しむ	51名												

◆ 広報誌の発行

広報の名称	南部地区だより	編集委員	自治会・長寿会・環境推進・健康推 進・長寿会連合で作成
1回あたり印刷部数		編集委員会開催日	
1回あたりの諸経費		発行回数	年1回
配布方法	自治会より各世帯に配布	発行日	

令和5年度 地区社協事業報告〈与北地区〉

(令和 5. 4. 1～令和 6. 3. 31)

目標	「向こう三軒両隣」からつながる地域づくり	設立年月日	平成2年2月20日
----	----------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	6/23 事業報告・会計報告（書面表決により実施）	
監査	6/9	
福祉協力員と民生委員合同打合せ会	4/14 令和5年度における福祉活動についての役割と分担の確認	

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 調理の担当 実施回数 延べ対象者数	独居高齢者等 福祉協力員、民生委員 福祉協力員、ボランティア部員 12回（R5.1.1～R5.12.31） 465人（R5.1.1～R5.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員8人、見守り活動推進員19人
ふれあい・いきいきサロン	9グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数37回、延べ利用者数231人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
さつま芋栽培体験事業	5/12 借上農地	さつま芋苗植付作業	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児
さつま芋栽培体験事業	9/20 借上農地	さつま芋収穫体験	役員、民生委員、ボランティア、小学校児童、幼稚園児

令和5年度 地区社協事業報告〈竜川地区〉

(令和 5.4.1～令和 6.3.31)

目標	つながる たすけあうまち 竜川	設立年月日	平成元年12月15日
----	-----------------	-------	------------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/28 事業報告、事業計画等（書面決議）	106名
監査	4/20	4名
理事会	5/7 総会提出議案について	20名
執行役員会	4/20 R5年度事業執行について	7名
	7/1 ふれあい夏祭りについて	9名
	8/30 特別会費徴収	3名
	2/10 会報誌、今後の事業について	4名
福祉委員会	7/7 ふれあい夏祭りについて	11名
	12/25 研修会打ち合わせ	10名
見守り活動推進委員 研修会	6/10 研修会、情報交換会	28名
	1/18 研修会、認知症について	28名
サロン代表者会	2/17 R6年度届け、R5年度報告について	15名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者 民生委員 19回（R5.1.1～R5.12.31） 671人（R5.1.1～R5.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員 10人、見守り活動推進員 16人
ふれあい・いきいきサロン	12グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数 40回、延べ利用者数 277人	
居場所づくり	サロン・わいわい亭（活動人数 1,640人）	毎週火曜日実施

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
ふれあい夏祭り	8/13 千手苑	高齢者・小学生とふれあい	150名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	健やか福祉のたより たつかわ	編集委員	横山、大西、大塚、元木
1回あたり印刷部数	1,500部	編集委員会開催日	7/1、7/30、8/3、2/3、2/10
1回あたりの諸経費	59,400円	発行回数	年2回
配布方法	自治会を通じ全戸配布 社協特別会員へ郵送	発行日	第29号 令和5年9月1日発行 第30号 令和6年3月1日発行

令和5年度 地区社協事業報告〈筆岡地区〉

(令和5.4.1～令和6.3.31)

目標	助け合い・支え合い・笑顔あふれる筆岡	設立年月日	平成2年2月26日
----	--------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/26 R4年度事業・会計報告、R5年度議案審議	58名
監査	4/15	4名
役員会	4/28 総会資料協議、地区社協理事会について	9名
	5/17 第42回広報誌編集委員会	7名
	6/24 先進地視察研修、高齢者交流会、見守り推進員研修について	8名
	8/8 先進地視察研修、高齢者交流会検討	9名
	8/12 先進地視察研修打ち合わせ	4名
	9/7 先進地視察研修打ち合わせ、高齢者交流会検討	6名
	11/14 広報誌編集、高齢者記念品慰問・見守り推進員研修について	5名
	2/12 R5年度の反省、R6年度事業実施内容について討議	9名
サロン代表者会	6/6 外出支援運行計画①7～9月	12名
	8/29 外出支援運行計画②10～12月	11名
	11/21 外出支援運行計画③1～3月、公民館まつり参加について	12名
	3/8 外出支援運行計画④4～6月、活動費支給	14名
理事会	5/20 総会資料についての承認	19名
見守り活動ネットワーク事業 (研修会、連絡会)	6/2 連絡会：講演、グループにわかれて連絡会	26名
	12/4 研修：かがわ総合リハビリテーションセンター コミュニケーション能力、傾聴の重要性について	15名
先進地視察研修	9/11 高知県佐川町ふれあい夢まちで視察研修	26名
高齢者交流会 実施説明会	10/11 準備、役割分担について打ち合わせ	28名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型 給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者、80歳以上の高齢者のうち希望者 民生委員 11回 (R5.1.1～R5.12.31) 313人 (R5.1.1～R5.12.31)
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員7人、見守り活動推進員22人
ふれあい・いきいきサロン	13グループ	
高齢者等外出支援事業	運行回数47回、延べ利用者数321人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
高齢者交流会	10/29 筆岡小体育館	女性消防団寸劇、フレイル体操、ピアノ演奏	75才以上独居高齢者等 139名
独居高齢者一日旅行	1/22 四国健康村	観劇、入湯、交流	75才以上独居高齢者等 30名
公民館まつり	12/9・10	サロン活動展示、ひとり暮らし高齢者案内	10名
親子フェア	7/15 筆岡幼稚園	子どもと保護者の遊び	54名
ひよこクラブ	①6/24、②8/5 ③10/21、④12/2 ⑤12/11、⑥2/26 筆岡幼稚園	子どもと保護者との遊び	①20名、②10名 ③16名、④8名 ⑤63名、⑥65名
ウォーキング	3/24 善通寺五岳の里	公園内でウォーキング	56名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	福祉ふでおか	編集委員	執行役員
1回あたり印刷部数	1,000部	編集委員会開催日	4/17、4/24、11/14、11/24
1回あたりの諸経費	50,000円	発行回数	年2回
配布方法	自治会に配布依頼 小学校・郵便局・JAに配布	発行日	第42号 令和5年5月発行 第43号 令和5年11月発行

令和5年度 地区社協事業報告〈吉原地区〉

(令和5.4.1～令和6.3.31)

目標	みんなで支えあい笑顔あふれる 吉原地区	設立年月日	平成元年6月28日
----	---------------------	-------	-----------

◆ 会議開催状況

会議・研修名	実施日・主な内容等	参加者
総会	5/28	61名
監査	4/2	4名
役員会	4/20 総会資料検討	6名
	4/28 総会開催について、総会資料審査・追加・訂正等	16名
	7/7 善・公まつり、サロン活動助成金等について	17名
	10/26 退任者へ表彰・感謝状等贈呈、歳末ふれあい訪問等について	17名
総会準備	5/9 総会資料作成	2名
	5/18 総会資料印刷・製本	6名
	5/28 席配置・資料・記念品等の準備	8名
役員・福祉委員会	2/21 合同研修会、子どもの居場所作り等について	40名
買い物バス運行計画策定	3/10 運行計画策定（コース別添乗員・利用者名簿作成）	3名
ふれあいサロン代表者会	7/27 サロン活動報告、外出支援バス利用等について	25名
	3/13 活動状況報告・意見交換、R6 継続申請書提出等について	23名
合同研修会	3/21 講演「フレイル予防で健康長寿」 講師 地域包括支援センター	43名
みまもり活動連絡会	4/12 活動の問題点と反省（3か月）、今後の活動について	17名
	7/5 活動の問題点（3か月）、今後の活動について	19名
	10/4 活動の問題点と反省（3か月）、今後の活動（研修）について	19名
	1/10 活動の問題点と反省（3か月）、今後の活動について	14名
みまもり活動連絡会研修	11/13 東かがわ市社協・湊コミュニティセンターみなくろの活動状況等と意見交換	17名
歳末ふれあい訪問準備	12/16 記念品等の仕分け	15名

◆ 事業実績

事業名	事業内容	
ふれあい安否確認型給食サービス	対象者 配食の担当 実施回数 延べ対象者数	75歳以上の独居高齢者 民生委員 17回（R5.1.1～R5.12.31） 771人（R5.1.1～R5.12.31）
見守り活動ネットワーク事業	担当者	民生委員・児童委員9人、見守り活動推進員9人
ふれあい・いきいきサロン	21グループ	
高齢者等外出支援事業	買い物支援バス：運行回数97回、延べ利用者数526人 サロン外出支援バス：運行回数42回、延べ利用者数281人	

◆ 交流事業、地区社協協賛事業等

事業名	実施日・場所	主な内容	参加者
地域の拠点・居場所づくり事業（第1回検討会）	12/9 公民館	市内の居場所の現状と地区の課題、地域の拠点・居場所づくりについて	策定委員、役員、市社協 14名
地域の拠点・居場所づくり事業（協議）	1/10 公民館	催し内容、対象者、実施時期について	役員、福祉委員、市社協 5名
地域の拠点・居場所づくり事業（第2回検討会）	1/16 公民館	催し内容、対象者、実施時期、周知、予算、ネーミングについて	役員、福祉委員、市社協 10名
地域の拠点・居場所づくり事業（第3回検討会）	1/27 公民館	決定事項：催し内容、各分担（責任者）、対象者（児童・保護者50名） 3/2（土）10時～ ネーミング「キッズここ家 in よしはら」財源（補助金）、案内状の依頼、チラシ配布	役員、福祉委員、市社協 20名
地域の拠点・居場所づくり事業（役員・福祉委員会）	2/21 公民館	参加者：61名（申込者）児童39名、保護者22名、アンケート調査の実施	役員、福祉委員、市社協 40名
地域の拠点・居場所づくり事業「キッズここ家 in よしはら」	3/2 公民館	一緒にあそぼう広場、ゲームコーナー、昔遊びコーナー、カフェコーナー、だがしやさんコーナー	児童、保護者、来館者、スタッフ 93名
歳末ふれあい訪問	12/17 公民館	記念品等の配布 要支援者、80歳以上の296名	23名

◆ 広報誌の発行

広報の名称	吉原地区だより	編集委員	北岡、村井、秋山、佐柳、尾崎
1回あたり印刷部数	1,100部	編集委員会開催日	第20号 9/14、9/26、9/28 第21号 1/16、2/18、2/25
1回あたりの諸経費	50,000円(年間)	発行回数	年2回
配布方法	各地区単位自治会長 (運営委員)	発行日	第20号 令和5年10月1日発行 第21号 令和6年3月1日発行

善通寺市地域支え合いセンター「ここ家」

令和5年度利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	一回平均	
開館日数(日)		22	23	25	22	25	23	24	24	23	22	23	24	280	23		
生きがいひろば	実施回数(回)	8	9	9	9	10	9	10	7	9	9	9	9	107	9		
	利用者数(人)	53	47	54	46	53	52	83	69	53	54	57	68	689	57	6.4	
	その他の利用者数(人)	86	116	124	94	90	81	96	92	81	84	112	90	1,146	96	10.7	
	ボランティア数(人)	9	9	8	7	10	9	10	7	7	8	9	10	103	9	1.0	
	日替わりシェフの店 「なないろ」	開店回数(回)	16	18	18	16	18	17	18	16	16	16	17	17	203	17	
		利用者数(人)	533	443	608	555	588	530	588	630	544	566	564	630	6,779	565	33.4
		シェフ及びアシスタント数(人)	33	68	39	68	62	35	39	29	34	33	33	37	510	43	
	あったか食堂 (こども食堂)	実施日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		協力者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ゆるゆるカフェ (発達障害者居場所)	実施日数(日)	0	0		1	0	1	0	1	0	1	0	1	5	0	
		利用者数(人)	0	0	0	2	0	1	0	2	0	5	0	1	11	1	2.2
		スタッフ数(人)	0	0	0	4	0	3	0	2	0	3	0	4	16	1	3.2
	会議等センター使用	会議回数(回)	6	6	6	6	5	6	6	8	3	6	7	5	70	6	
		利用者数(人)	62	77	76	75	83	80	67	88	60	94	108	86	956	80	13.7
	ここめし	利用者数(人)	0	0	26	0	30	0	32	0	31	0	24	0	143	12	28.6
		スタッフ数(人)	0	0	10	0	10	0	10	0	9	0	9	0	48	4	9.6
	ここめし女子会	利用者数(人)	4	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	14	1	4.7
		スタッフ数(人)	6	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	11	26	2	8.7
	ここ寄席	利用者数(人)	0	20	0	0	21	0	0	0	11	0	13	0	65	5	21.7
スタッフ数(人)		0	4	0	0	4	0	0	0	4	0	7	0	19	2	6.3	
計(1)	人数(人)	786	784	945	851	951	805	925	919	834	847	936	942	10,525	877	37.6	
日常生活支援 介護予防 総合事業	通所サービス	実施日数(日)	19	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	242	20	
		利用者数(人)	260	279	299	286	262	265	333	317	302	279	254	279	3,415	285	14.1
		ボランティア数(人)	14	12	10	15	17	16	18	16	18	15	9	15	175	15	1.4
	のびのび元気教室 (脳トレ)	実施回数(回)	8	7	8	8	8	10	9	9	10	8	8	8	101	8	
		利用者数(人)	92	83	93	81	89	100	65	71	64	71	64	69	942	79	9.3
		サポーター及び 運転手人数(人)	89	42	50	42	49	47	36	39	35	38	34	36	537	45	5.3
		その他	2	11	1	5	6	8	8	3	3	6	3	12	68	6	0.7
	計(2)	人数(人)	457	427	453	429	423	436	460	446	422	409	364	411	5,137	428	15.0
	合計(1)+(2)	人数(人)	1,243	1,211	1,398	1,280	1,374	1,241	1,385	1,365	1,256	1,256	1,300	1,353	15,662	1,305	
	令和4年度利用状況	人数(人)	1,019	966	1,218	1,152	1,131	1,202	1,271	1,252	1,202	1,122	1,230	1,402	14,167	1,181	